

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

- ・学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 ～意欲・健康・豊かな心～
- ＜意欲＞「何事にも意欲的に取り組む生徒」（自ら学ぶ力・基礎学力・判断力）
- ＜健康＞「たくましい身体と強い意志をもつ生徒」（充実した体力・気力・健康）
- ＜豊かな心＞「相手を思いやり、豊かな人間性を育むことのできる生徒」（豊かな感性・情操・コミュニケーション）

4月

学力向上目標①

○さいたま市学習状況調査において、平均正答率を前年度より 1pt 向上させた値にする。

＜目標達成に向けた学力向上策＞

策1

全学年で、主体的・対話的で深い学びを通して、確かな学力を身につけさせる生徒の育成をする。

開始期日

6月

具体的な手立て

- ・話し合い活動を中心とした学習過程を活かした各教科による授業実施。
- ・ルーブリック評価の活用。(2, 3学期に1回実施)

8月

策2

〈全国学力・学習状況調査結果分析後〉

開始期日

具体的な手立て

2月

本年度の振り返り

達成度

%

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

- ・学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 ～意欲・健康・豊かな心～
- ＜意欲＞「何事にも意欲的に取り組む生徒」(自ら学ぶ力・基礎学力・判断力)
- ＜健康＞「たくましい身体と強い意志をもつ生徒」(充実した体力・気力・健康)
- ＜豊かな心＞「相手を思いやり、豊かに人間性を育むことのできる生徒」(豊かな感性・情操・コミュニケーション)

＜本年度の学力向上策＞

- 1 「主体的・対話的で深い学びを通し、確かな学力を身につける生徒の育成」を研究主題として、
 - (1) アクティブ・ラーニングを取り入れ、「目標掲示」・「話し合い活動」・「振り返る活動」を重点化した授業の展開
 - (2) ルーブリック評価を活用した学習評価の工夫
 - (3) 家庭学習の習慣化
 - (4) 小・中一貫教育モデル校として過去4年間築き上げてきた小学校との連携を基盤に、小・中学校の9年間を見通した視点を取り入れることについて全教員で共通理解を図り、授業改善や指導法の工夫に努める。
- 2 ユニバーサルデザインの考え方に基づいた、誰にとっても分かりやすい授業展開や環境整備を進め、学力向上に向けた環境づくりをする。
 - (1) 「土呂中スタンダード」に基づく授業の展開
 - (2) 生徒が授業に集中しやすい学習環境整備とカテゴリー化された掲示物の配慮
- 3 年間授業時数 15 時間分の増加を全学年「数学」に充てた。数学科教員が T1 となった全教員による数学授業の実践により基礎基本の定着を図るとともに、通常時間内でのアクティブ・ラーニングの充実に努める。
 - (1) 定期テスト前の1週間は朝読書時間を活用しモジュールでの授業を実施
 - ・朝数ドリル(年25回実施)を行い、基礎学力の定着と弱点補強をする。
 - (2) 定期テスト前日に特別時間割による問題練習のための授業を確保し実施
 - ・テスト対策(年5回実施)として、学習内容の振り返り学習をする。
 - (3) アクティブ・ラーニングの課題を取り入れた授業を行う。
- 4 各種調査結果を活用することで、生徒の学力・学習状況及び課題の把握に努める。
- 5 その他
生徒ひとり一人の学力向上に向け、放課後学習会(定期テスト前の質問会・苦手な生徒を対象に補習会)や夏休みの学習会等を行う。

＜本年度の振り返り＞

今年度の具体的な取り組みとして、昨年度設定した土呂中学校のアクティブ・ラーニングとして「話し合い活動を中心とした学習過程」「ルーブリック評価」「深い学びの技法」を取り入れて、5月の計画訪問で授業実践を行った。その後、計画訪問の指導をもとに授業改善を図り、1月に要請訪問を行った。また、「家庭学習力」の向上のために、「テスト計画表」を全校で統一し、生徒が自ら計画を立てて学習するよう取り組んだ。その結果、12月に実施した「よい授業」のアンケート結果では、6月の結果に比べ、「因子③授業スキル」が0.7ポイント、「因子④児童生徒の活動」が0.3ポイント上昇した。年度の最後に、さいたま市のアクティブ・ラーニングを指導している早稲田大学教職大学院の田中教授に来校して頂き、研究授業・研究内容等について指導を受け、講演をして頂いた。

今後は、来年度の研究発表に向けて、「話し合い活動を中心とした学習過程」「ルーブリック評価」について更に研究を進める。そして、「テスト計画表」に続き、家庭と連携して行う「家庭学習力の向上」に取り組み、自ら計画を立てて学習にすることに対して更なる改善を図っていく。子どもたちの「生きる力」と「確かな学力」を更に育むよう、研究に取り組んでいきたい。

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

・学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 ～意欲・健康・豊かな心～

＜意欲＞「何事にも意欲的に取り組む生徒」（自ら学ぶ力・基礎学力・判断力）

＜健康＞「たくましい身体と強い意志をもつ生徒」（充実した体力・気力・健康）

＜豊かな心＞「相手を思いやり、豊かに人間性をつくることのできる生徒」

（豊かな感性・情操・コミュニケーション）

＜本年度の学力向上策＞

1 ユニバーサルデザインの考え方に基づいた、誰にとっても分かりやすい授業展開や環境整備を進め、学力向上に向けた環境づくりをする。

(1) 「土呂中スタンダード」6本の柱に基づく授業の展開

①情報伝達の工夫 ②一人ひとりの学びへの対応 ③授業構成の工夫 ④学習や活動の振り返り
⑤学習活動や意欲の持続 ⑥学習環境の整備

(2) 「授業のユニバーサルデザイン化チェックリスト」を活用した授業

(3) 生徒が授業に集中しやすい学習環境整備とカテゴリー化された掲示物の配慮

2 「主体的・対話的で深い学びを通し、確かな学力を身につける生徒の育成」を研究主題として、

(1) 『よい授業』の4つの因子の理解を深め、生かすこと

(2) 小中一貫教育モデル校として過去4年間築き上げてきた小学校との連携を基盤に、
小中の9年間を見通した視点を取り入れること

について全教員で共通理解を図り、授業改善や指導法の工夫に努める。

3 年間授業時数15時間分の増加を全学年「数学」に充てた。数学科教員がT1となった全教員による数学授業の実施により基礎基本の定着を図るとともに、通常時間内でのアクティブ・ラーニングの充実に努める。

(1) 定期テスト前の1週間は朝読書時間を活用しモジュールでの授業を実施

・朝数ドリル（年25回実施）を行い、翌日に解答・解説とともに返却をする。

(2) 定期テスト前日に特別時間割による問題練習のための授業を確保し実施

・テスト対策（年5回実施）として、学習内容の振り返り学習をする。

4 各種調査結果を活用することで、生徒の学力・学習状況及び課題の把握に努める。

5 その他

(1) 生徒ひとり一人の学力向上に向け、放課後学習会（定期テスト前の質問会・苦手な生徒を対象に補習会）や夏休みの学習会等を行う。